

山でクマに会う方法

山と渓谷社をご存じですか？私は最も仕事の忙しい折に、気分転換や体力維持の為に登山をした。山は新鮮な空気や云いようのない景観（例えば北岳に登って360度の景色を手にした時の感動など）は、全ての負荷を消してくれるし、急登道は頭を真っ白にしてくれる。山は力強い友人でもある。登山で一番会いたくないのは雷で欠か熊公。しかし、山は本来彼らの生活の場なのだから年中山中でウロウロしているし当然ながら出会うことになる。私は度々熊公を見ているが、5m以内でバツリ遭ったことが1度ある。

その日も一人で沼田から栗原川林道を経由し、皇海山（スカイサン）登山口に到着。幸い台風に駐車しており先客がいる様子。慌てて出て来たので鈴を忘れ2台の車にやや安心。いつものようにハイピッチで進んでゆくと、笹藪直には足跡がない。いや2台の車は溪流沿いか？次第に不安と緊張がたまる。その時、上の方でガサガサと音がする。やれやれ先客に追いついたと一安堵。エイヤーと登った。

次の瞬間、道の下側にガサッ、ギク、黒い塊の赤い光とガチン合目（アイコンタクト）。ワーワー絶叫！！黒い物体はドキャンとなって一目散に登山道を駆け下りて行った。フーッと一息。いやありや随分小さい奴だったけど小熊かな？すると付近に母熊が？ウーやばい。回りは笹藪だらけの世界だ。母熊に襲われる前に撤退だ。熊か？風が笹を鳴らす。大声で少年隊の歌を叫びながら今小熊が逃げた道をビクビクと下って行った。後日、巻頭の本で、体長60cmは成長熊と知った。その後、熊に関する本は随分読み、熊にもいろいろあることが分かった。鈴は南信越の高級品を持って登っている。

（笹丸 梅崎 潤）



この街と音楽家

大田区に移り住んで約20年になります。

私にとって何のゆかりもなかったこの街に住むきっかけは、音を出しても良いと言う物件があったからです。音楽家にとって家での練習は必要不可欠の為、住宅が密集している区内では住む所にとっても苦労するのです。また、駆け出しの頃は一日中練習している事も多く、上手く弾けない箇所を何度も何度も練習するため、周囲の方からすると一番下手な状態を延々聞かされる訳ですからたまったものではありません。しかし、この街では「家事をしながら心地良く聞いているから遠慮なく！」とおっしゃって下さったり、食事なんて作る時間がないのではと、毎日のように夕飯を届けて下さる大家さんがいたり、本当に地域の方々に応援して頂きながら20代を過ごしました。

そんな環境のお陰で無事オーケストラに入団し、気が付くと周りにはプロの音楽家が沢山住んでおり、大田区会ができていく程です。そんな仲間と共に、度々病院や保育園などに出向き音楽をお届けしています。少しずつですがこの街に恩返しをしたいと思っています。最後に、楽器を持っている若い方を見かけたら、是非応援してあげて下さい。

（東中・東京都交響楽団 高橋純子）

絵手紙との出会いそして母への思いを

絵手紙との出会いは今から20年前ぐらいだった気がします。ふれあい雪谷に笹丸地区の女性の方が洗濯池図書館で月1回お稽古をしている紹介の記事でした。すぐに入会させて頂きました。先生の優しさ生徒さん達の穏やかさで私は絵手紙の虜になり、お稽古の日が楽しくなりました。葉書に季節の花、野菜、果物、等々の実物を見ながら筆で輪郭を書き顔彩（絵具）で色をタッチよく塗っていきます。その後に言葉を添えるのです。差し上げる相手の顔を思い浮かべ、いたわり、応援、などの言葉を書き最後に名前の印を押すのです。この印を押すと私の下手くそな絵手紙もなぜか引き締まるのです。散歩をしても、今までは見逃していた小さな草花にも目がいくようになり、葉の葉脈まで見るようになり小さな発見に幸せを感じました。

15年続いた絵手紙教室も図書館のお部屋が取れにくくなり、生徒さんの高齢化で卒業となりました。最後の年の展覧会、図書館のギャラリーで92歳で旅立った母への思いを7枚の絵手紙にしました。料理が上手で父の仕事を手伝いながら5人の子育て、クリームひとつつけず、紅もささず、懸命に生きていたと、思います。見てくださった方の涙を誘ったようです。ささやかな絵と短い文章で相手に気持ちが伝わるなんて、絵手紙素晴らしいです。どこかで絵手紙を見ることがあったら、ゆっくり、見てください。絵手紙に出会えたふれあい雪谷に感謝です。有難うございました。

（石川台 鈴木真知子）



編集後記

本号巻頭に元オリンピック選手小野喬さんの言葉が紹介されました。41のメダル総数は、ロンドン大会の38個を超え史上最多を記録した、第31回夏季オリンピック・リオデジャネイロ大会が終了日本選手の活躍に胸おどりと、涙した人も多かったのではないのでしょうか。金メダルを獲得した選手諸君の活躍は光りますが、力のある限りを出し尽くし感動の逆転劇を演じた人、それでも目的を達しえず無念の涙をのんだ選手達を忘れることが出来ません。

4年後には東京五輪を迎えます。国籍も人種も違う人達が夢舞台で交流と友情を深めあうために、日本政府も日本オリンピック委員会も最大限の知恵と力を発揮し再び、日本国民に感動と興奮を与える大会を今から期待したいと思います。

（南雪谷 立麻裕穂）

ふれあい雪谷(創刊:平成2年(1990)12月20日) 年4回発行
(1月:新年号/4月:さくら号/7月:あさがお号/10月:もみじ号/の1日発行)
[発行日] 平成28年(2016年)もみじ号 10月1日(通巻:第104号)発行
[発行] 地域力推進雪谷地区委員会 [編集]「ふれあい雪谷」編集委員会
[連絡先] 雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

ふれあい雪谷

平成28年 10月 もみじ号 通巻第104号



切り絵 秋の祭礼
小池 小山澄雄さんの作品

元オリンピック選手小野喬さんに聞く

リオデジャネイロ・オリンピック、パラリンピックが終わり、4年後は東京大会である。日本選手の活躍がすさまじく、国中を熱くしました。未だ興奮と感動の余韻を楽しんでいる方も多いでしょう。時節は秋、スポーツまっ盛りである。そこで上池上地区にお住いの元オリンピック選手小野 喬（たかし）さんにお話を伺いました。

小野さんは、1952年ヘルシンキ大会から4大会連続でオリンピックに出場しており、1964年の東京大会では日本選手団の主将として開会式での選手宣誓も務めている。「鬼に金棒、小野に鉄棒」ということばも生まれた偉大な選手で、現在も関係機関の顧問や会長職にあって全国的に活躍されている。そのようなお忙しい中で時間をつくってくださり、いろいろ話しをお聞きました。

「体操を始めたきっかけ」

小4のときの運動会で、明治神宮大会（のちの国体）に出た選手のマットや鉄棒の演技を見てすばらしさに感動した。校内の壁には、つり輪の演技の写真があり興味を持った。特に鉄棒の大車輪にはびっくりし、友だちと鉄棒や前転などをするようになったことがきっかけである。



「国体に出場」

旧制の能代中学で体操に本格的に取り組み、3年の時に第1回の国体が大坂であり出場、個人2位に入賞した。国体出場では、選手として開会式の会場に向かった列車が大混雑でデッキに乗っていて左足を怪我し、本番の競技に出場できず残念だったこと、その大きな怪我を克服し練習に励み、出場した次の大会で優勝という快挙を手にしたことなど思い出される。

「初めてのオリンピック出場」

国体での優勝などもあり、21歳でヘルシンキ大会に初めて出場した。ところが、大会に向かう機内で発熱し蓄膿症と分かり、現地で治療してもらい鼻に綿を詰めた状態で競技に臨んだ。結果は跳馬で銅メダルだった。

「オリンピック出場4回」

連続4回出場しているオリンピックでは、それぞれに貴重な経験や思い出がある。なかでは、メルボルン大会での金メダル、ローマ大会での団体優勝が忘れられない。東京大会では主将で選手団を率いたが、これもよい経験になった。

「地域での活動」

クラブで健康体操を含めて、スポーツ指導をしている。子どもからお母さん方、勤め人まで多くの人たちが活動をしている。ドイツでは地域にスポーツクラブが9万箇所もあり、3歳児から運動に夢中である。これは大田区にすれば、千箇所に相当するクラブ数である。このように外国では数多くのクラブがみられるが、日本はとて少ない現状であり課題であると考えている。

聞き終えて感じるのはスポーツだけでなく、何かのきっかけというものはやってくるものではなく自らつくるものであること、日々の生活の中で厳しい場面にぶつかっても、それを乗り越えることが大きなものを生むということであった。

（上池上 田上潤一）

有権者であるという自覚

18歳である私は、人生で初めて有権者の1人として今回の投票に参加して感じたことがある。それは日本国民の政治に対する関心の低さだ。一概には言えないと思うが、選挙権を持つことに対する責任の重みを感じていない人が多いのではないだろうか。実際にテレビで若者が「正直、政治のことわからないです。」と無責任な発言を少なからず聞かすが、これは有権者としてあるべき姿なのだろうか。私は決してそうは思わない。なぜなら国を動かす代表を決めるのは我々国民であり、その権利がある以上、政治のことを知る「義務」があるから考えるからだ。そもそも国を動かすということは、我々国民に大きく関わる身近なことを決めていくことにもなるので、そのことは自分には無関係であると勘違いし、政治に対して無関心且つ無責任な態度は取ってはいられない。

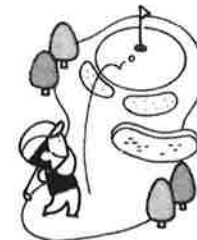


私たち日本国民は、小学校から中学校までの最低9年は教育を受ける義務があるが、その“学校”という場が主に若い時に教養や知識を身に付ける場の中心であり、さらには視野や興味の幅を広げることの出来る場でもある。そんな場で、さらに濃く政治に触れられる授業や、政治に対する意見交換の場を多種多様な人がいる場で増やすことで、若者の政治に対する見解が変わると思う。つまり、根本的に教育制度を変えるべきだと思う。しかし、それは明日から変えられるような簡単なことではないので、家族や友人と“政治”について話すという身近なことから積極的に始めてみるのがいいのではないかと。

近い将来、若者の政治に対する関心度が高まることを期待したい。

（池の台 市野夏希）

ゴルフは楽し



ピンに重なって見えるほど、真直ぐに飛んでいったボールはピン手前3ヤードに落ちて、止まるかに見えて次の瞬間消えました。

香取カントリークラブ（千葉県香取市）、133ヤード8番アイアンでした。この原稿を依頼された直後のホールインワン！仲間達との祝宴のあと帰宅した処、孫娘から「じーじ！50年もゴルフやっていて、たった3回しか入らないの？」と言われ「それもそうだ」と思い調べてみると、男子プロの確率は900ラウンドに1回、一般ゴルファーではなんと、1万ラウンドに1回なんだそうです。ホールインワンは神様が気まままに与えてくださるうれしい偶然の産物なのです。

私もすでに後期高齢者、仕事もとっくに終わることが出来ましたし、多くの素晴らしい仲間恵まれました。おかげで数多くの北米の名コースを堪能したり、スコットランドで荒野と風雨のすさまじい自然に打ちのめされたりする機会もありました。

あと何年プレーできるか判りませんが、身体と相談しながら、ゆっくりと楽しみうれしい時も悔しい時もナイスショットを夢見て語り合いながら、これからも無心に楽しんで行きたいです。

——もっと深く、もっと楽しく！——

（小池 三木尚道）

私のおすすめスポット

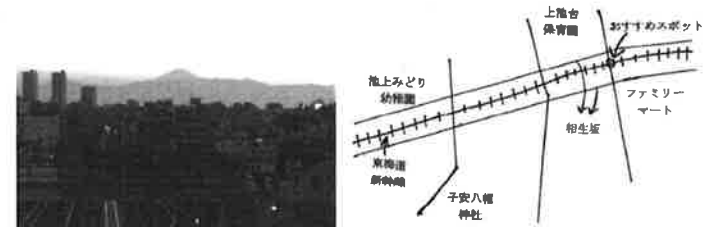
「ふれあい雪谷」平成27年10月創刊100号記念特別号中面に、素晴らしい雪谷の地図入り（我が家の永久保存版）おすすめスポットの中に「雪谷のダイヤモンド富士」がありました。私のおすすめの富士はやはり新幹線が下を走る富士見橋から見る富士山です。

雪谷地区の16坂道の一つ「相生坂」の坂上にある富士見橋はまさにその名の通り、新幹線の下り方向、正面の少し右に富士山が見えます。左には武蔵小杉の高層マンションが林立しています。

下の写真は平成28年元旦の夕刻に撮ったもので、たくさんの人が見に来ていました。

皆さんも時間がありましたら、ぜひ冬場（空気が澄んでいる）の天気の良い日にダイヤモンド富士を見に来てはいかがでしょうか。

（東雪 NY）



スポーツ健康都市宣言記念事業第33回大田区民スポーツまつり
雪谷地区9自治会スポーツまつりが開催されます！！

日時 平成28年10月9日（日）

場所 雪谷小学校 校庭（雨天時は体育館）

時間 午前9時30分

当日の参加も可能ですので、奮ってご参加ください！！